資料番号5－①

区レベル地域ケア会議　検討シート（討議結果を反映）

【検討課題】 認知症高齢者の支援（ケースA・B）

Ⅰ　個別レベル会議での主な事例

【ケースA】
70代女性
要介護2。
家族が目を離したすきに一人で外出してしまい、帰れなくなり行方不明となった。

【ケースB】
90代女性
要介護3
自宅に一人でいる時間が長く、買い物に出て道に迷うことが多い。同居の長男は仕事で多忙のため地域との関わりはない。

Ⅱ　事例から導きだされた地域課題・問題（圏域レベル）

●子育て世代や若い世代も含めた広い世代の人たちが、認知症を正しく理解し、もしものときの声掛けなどにより早期発見に繋げられるような体制になっているか。

●本人や家族が、いつでも気軽に集まれる場があるか。

●本当に困っている人の発見と、関係機関への繋ぎをどのように行うか。

Ⅲ　区レベル地域会議で挙がった課題解決策の案〈具体的な役割分担〉　※それぞれが少しでもできること

	本人・家族	地域住民	地域団体［自治会町会・民協・シニアクラブ 等］	地域資源［商店・事業所・企業　等］	専門機関［福祉・医療・法律等の専門職］	地域包括支援センター	社会福祉協議会	大田区
解決策①　認知症サポーター養成講座の受講の勧奨と、開催場所の確保								
	認知症サポーター養成講座を受講					講座を開催、利用者へ受講勧奨 講師の養成		参加しやすい時間に講座開催（夜間や出張所） 講師の養成
	認知症への興味をもつ 正しく理解し、我が事として受け止める		会場を提供 地域住民へ受講勧奨					
解決策②　子育て世代、子ども世代に認知症を正しく理解してもらう								
			子ども民生委員制度で子どもを教育		教育機関で子どもに講義		子ども民生委員制度で子どもを教育	教育委員会との調整
解決策③　本人や家族が、いつでも気軽に集まれる住民主体の集いの場の整備・周知								
	元気なうちからボランティア等で参加する等気軽に集いの場へ通う	集いの場となるカフェやサロンなどの開設。（子ども食堂の活用など） 困ったときなどの一時的な居場所・集いの場の設置			デイサービス等の介護施設運営	集いの場を利用者に紹介 家族介護者会を支援	集いの場の整備を支援 集いの場のリストを作成 情報更新、アクセスできる体制づくり	
			集いの場となる場所を提供・周知					
解決策④　困った時の相談場所、その相談先リストの作成と、区民への普及啓発								
	相談先がどこか聞く	普段の付き合いを深め、気軽に相談できる関係づくり				相談先のリストを作成・配布		
	相談先に連絡・相談		困っている人に相談先を周知		相談を受ける			
解決策⑤　認知症の人の早期発見と関係機関へのつなぎ、見守りを行う上での個人情報の扱い								
	認知症を正しく理解し、認知症の疑いのある人を普段の付き合いの中で互いに発見 （近隣の付き合い、商店・医療機関などの利用者）				認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員で対応			行方不明高齢者に関わる新たなサポーター等養成制度の構築
地域包括支援センター								
社会福祉協議会								
大田区								
			地域活動の中で見守りや、居場所づくりをする人・団体への支援・連携関係構築、情報の収集・蓄積・周知					

今回の区レベル会議のまとめ

認知症への正しい理解を本人や家族、地域住民から行政までみんなが共通認識を持つことが重要である。そのためには認知症サポーター養成講座の受講を高齢者世代だけでなく、子育て世代や子ども世代など多世代へ啓発や教育をすることが必要である。認知症への正しい理解を得て、普段の付き合いをする中で、認知症の初期症状の早期発見に繋げることができる。
また認知症の人を支援していくには、相談先をみんなが知っていることが必要である。そのため、相談リストを作成すること、地域団体などが相談先を区民に積極的に周知することをすすめていくことが望ましい。
さらに認知症とその家族が気軽に通える居場所を地域住民や地域団体が設置していくことも重要な支援である。それを社会福祉協議会や大田区が支援する体制をすすめることが必要である。